

隠す文化から隠せない文化へ

平和統一 NEWS 54号(2013/3月号)

渡辺 久義

今、私たちの「創造デザイン学会」サイトに、「インディゴ」「クリスタル」「レインボウ」と呼ばれる子供たちを扱った2編の論文と、もう一つ別に「前イルミナティ、マインド・コントロール・プログラマーの告白」という記事が掲載されているので、これらを読み比べて考えてみていただきたい。何か今この時に与えられた重要な問題点が見えてくるはずである。私は（特にそういう意図をもって並べたわけではないが）ここから、今まで我々の生きてきた世界と、今からやってこようとする世界を分ける、最も重要な一点が見えてくると思う。

まず、我々のこの世界を最も根底で規定しているのは、ルシファー（ルーシェル、サタン）文化であることに異論のある人は、少なくともこの月報の読者の中にはいないであろう。これが「サタン圏」と言われるもので、我々はほとんどそれと気付くこともなくそこに住んでいる。しかしここ数年来、聖書にある「毒麦と良い麦」の比喻のように、これまで見えなかった、このルシファー信仰の大元にあるものがはっきり見えてきた。

それが「イルミナティ」と呼ばれる秘密結社、すなわち世界支配を企む大陰謀団である。彼らが支配していると言われるものが6つある——1.メディア、2.銀行(金融)、3.教育、4.中央・地方政府、5.科学、6.宗教(教会)。これらすべてが、彼らが自ら公言する Luciferianism によって支配されたらどうなるか？ 我々は窒息して死ぬしかないだろう。しかし残念なことに我々は、どうしてこんなにひどい世の中なのだろうと思いつつも、やはりこれはどうしようもない、自然のことなのだろうと思って生きてきた。

なぜ気がつかなかったのか？ それは、すべてが秘密によって裏から操作されてきたからである。しかしこれは今、徐々に、しかし確実に暴かれつつある。あっと驚くようなことが近い将来、必ず起こるのである。

そこで、かつてイルミナティ組織の中核で働き、今は脱出してこれを暴き告発している女性についての、上記の記事を読んでみていただきたい。この記事でおそらく最もショッキングなのは、イルミナティ内部で行われる、子供に対する人格破壊的な教育である。彼らは最初に、「この教団の第一のルールは秘密保持」だと教えられ、「絶対服従」「質問してはならない」「絶対に人を信用するな」「親切は悪徳」といった、我々からみれば非人間的だが、彼らにとっては優秀な人間をつくるための教育が、ずっと続くのだという（ある段階では暗殺教育も行われる！）。だから彼らは、秘密主義、隠すこと、騙すこと、本来の人間性を絞め殺すこと、そうすることによって他者（部外者）を蹂躪し支配する能力を身につけるように育てられる。——それはひどい、我々はそんな者たちに支配されてはいない、

という人は手をあげていただきたい。

この記事で最も悲痛なのは、苛酷な教育を受ける者たちがこぞって「昇進」を望む大きな動機は、人を傷つけなくてもいいような地位に昇れるからだ、という述懐ではなかろうか。(読んでみればわかる通り、「傷つける」というのは我々が考えるような生易しいものではない。)

そこで我々は、この悲しくも恐るべきイルミナティの文化・伝統を断たねばならない。彼らの文化・伝統を断つということは、我々自身の文化・伝統を断つということである。彼らと我々の間に変わりはない。彼らは同じルシファー崇拝の司祭を務めているというだけである。そこで革命が起こらなければならない。人間の意識そのものが進化しなければならない。すなわち、本心を隠す、騙す、恐怖で人を支配する、というようなことが不可能になるような世界を創り出さねばならない。

その認識に立って、上記の、いま世界各地に現れ始めていると言われる、新人種ともいふべき子供たちについての記事を読んでみていただきたい。彼らは「インディゴ」「クリスタル」「レインボウ」チルドレンと呼ばれ、この順に進化していると言われるが、彼らに共通するのは、人の心を見通す能力を生まれながらにもっているということである。だから彼らにとっては、騙すとか騙されるということがありえない。我々は、別々の肉体を持っているのだから、心も別々のはずだと考えている。しかし彼らにはそれが通用しないのである。人間は本来一つの心を共有する、人間だけでなく自然界すべてが一つの生命体であるということを、我々に教える幼い教師たちが、いま我々の惑星に送られてきているのである。

そしてこれは、やがて我々が3次元世界から4次元世界に移行することになると言われる、その4次元世界の人間の基本的なあり方である。これについては、もう一つの論文「2012年12月21日：ロマンスと現実Ⅱ(後半)」を読んでいただきたい。そこにはこう書かれている——その世界では「嘘をつく、騙す、盗む、見下す、強いる、いじめる、苦しめる、また人の名誉を傷つけることは、**不可能**なのだ」(37頁)——その世界は遠からず必ず来る！